

NTTOBSV 会会報 No. 13

2009年11月28日(土)

Home page : <http://sv.nttob.org/>
e-mail : sv@info.nttob.org

目次

- ◆[最近の動き](#)
- ◆[ご挨拶](#)
[NTT 東日本 国際室長 内田孝則氏](#)
- ◆[現シニアボランティア活動報告](#)
[プノンペン便り No. 4 須山 勝彦氏 \(カンボジア\)](#)
- ◆[本会入会者リレー寄稿 私の歩んだ道](#)
[第一回 「私のボランティア奮闘記」](#)
[須貝 弘氏 \('02 チェニジア\)](#)
- ◆[お知らせ](#)
[○青年海外協力隊 \(JOCV\) 壮行会のご案内](#)

最近の動き

鈴木弘道氏がトンガへ赴任

本会幹事の鈴木弘道氏は、9月28日トンガの首都ヌクアロファに赴任しました。派遣先は Department of Communication で ICT 政策推進支援をなさいます。ご活躍をお祈りいたします。これで本会入会者のシニアボランティアとして活動中の方は5名になりました。

賀村瑠璃子氏が青年海外協力隊員としてカンボジャへ赴任

本会会員賀村瑠璃子氏が、NTT 現職派遣の青年海外協力隊員としてカンボジャへ赴任しました。

既に本会幹事でプノンペンで活躍中の須山勝彦氏とも連絡を取り合っておるとのことです。

ご健闘をお祈りします。これで NTT 現職派遣の青年海外協力隊員は6名になったとのことです。

虎頭保尚氏の青年海外協力隊員として活動が JICA ボランティアニュースで紹介

本会会員虎頭保尚 (ことうやすひさ) 氏が、NTT 現職派遣の青年海外協力隊員としての活動ぶりが、JICA 発行のボランティアニュース (2009. 9. 19) で紹介されました。

氏は平成 17 年ニジェールに赴き、職業訓練校で実施したコンピュータの授業内容を教科

書としてまとめ、それが同国文部省認定の公的な教科書として認定され、現在でも使用されております。

JICA シニアボランティア秋募集説明会に協力

去る10月を中心に開催された関東一円のJICAシニアボランティア秋募集説明会のうち3会場で、加藤幹事が体験発表者やよろず相談員として協力しました。説明会には多くの熱心な方々が出席され、多くの質問や相談がありました。出席者の数は前年を上回り、JICAは例年より多くのボランティアを送り出したいとのことです。

NTT 関係技術士の会で当会を紹介

去る10月22日開催されたNTT関係技術士の会（会長池田博昌氏）で加藤幹事がシニアボランティア及び本会を紹介いたしました。これは技術士の方々の活動の選択肢に1つとして参考になるように紹介したものです。これを契機に本会に関心を持ち入会された方もおられます。

ご挨拶

初めまして。

7月1日付で東日本ITイノベーション部国際室長を拝命致しました内田と申します。この度はNTT・OB・SV会の皆様にご挨拶させて頂く機会を賜り、ありがとうございます。

昨年発表されたNTTグループの新たな中期経営戦略において、グローバルビジネスは成長戦略の柱の一つとして取り上げられております。東日本国際室としては、東日本の強みである光アクセス技術を通じて、グループの国際展開に貢献していく所存です。

グループの総合力を活かした例として、ベトナムのタンロン工業団地における取り組みがありますが、こういった例は一朝一夕にできるものではなく、過去諸先輩の方々の綿々たるご尽力の上に実った果実だと思えます。先日カンボジアを訪問した際にも、NTTグループに対する期待が感じられました。

これまでNTTグループでご活躍されてきた方々が、引き続きシニアボランティアとしてご活躍され、その知見・経験・ノウハウを絶やすことなく、若い世代に引き継いで頂くことは、NTTグループの枠を超え、日本にとっての財産となると思えます。

皆様の益々のご活躍と、貴会のご発展を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2009年11月

NTT東日本 ITイノベーション部 国際室
内田孝則

プノンペン便り សំបុត្រភ្នំពេញ

プノンペン便り No.4 2009年11月1日 須山 勝彦

(須山勝彦氏の「プノンペン便り (No. 1) (No. 2) (No. 3)」は、本会 HP に掲載されております。)

カンボジアの盆踊り

カンボジア日本人会主催の盆踊り大会が10月18日、カンボジア日本人材開発センターで開かれた。当日はあいにくの雨模様の中、当地に滞在している日本人、外国人、多くのカンボジア人が集まり、踊りや屋台で日本文化を楽しんだ。会場を覗いてみると、盆踊りの飾りつけは日本風だが、流れてくる曲はポピュラー音楽ばかりで、腰の前で手を左右にひらひらさせるカンボジア式の踊りを皆踊っていた。ディスコのような青いスポットライトの照明もあり日本の盆踊りとはイメージが違ったが、皆楽しく踊っていて「これがカンボジアの盆踊りなんだ」と妙に納得した。



盆踊り大会の様子。舞台の上は日本的だが、下では皆カンボジア式に踊っている。

私は9月から日本人学校（土曜日だけ開かれる補習校）で中学生に数学を教えているので、学校の行事として参加した。小学校高学年と中学生が出店したかき氷屋は、子供たちが熱心に呼び込みをやり繁盛したが、氷を削るのは大人でないと無理で、校長他の男性陣が奮闘した。外地に暮らす子供たちにとって、皆で何かをやり遂げたこと、日本文化に触れたことが、きっと良い思い出になったことと思う。



子供たちが出店したかき氷屋。メニューやノボリも作り、お店やさんを楽しんだ。

地方で活躍している青年海外協力隊員も何人か上京し、それぞれの活動を宣伝していた。技術を教えるだけでなく、販路の開拓や支援者を増やすことも大事な活動である。

カンボジアでの教育支援について

カンボジアでは現在90%以上の子供が小学校に入学できるようになったが、中学は60%、高校は23%とまだまだ初等中等教育の拡充が必要である。また6月末に全国一斉の高校卒業試験があったが、政府の発表では約9万人が受験しており、これは対象年齢層の24%に当たり、上の数値とほぼ合っている。

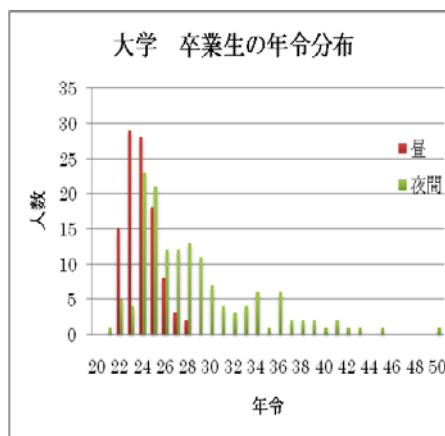


協力隊員の共同出店。手前はタケオ州の農協のコメの産直販売、奥はカンボット州の職業訓練校の学生が織った木綿のクロマー（カンボジア式スカーフ）。

私の職場は大学中心の高等教育なので、「貧しくて学校へ行けない底辺の人たちを支援するのも大事だが、国の中

核となる中流層を育てることが国造りに貢献する」という想いで活動している。先日、日本人の教育関係者の集まりで、学位は金で買える国なので高等教育には興味がないと乱暴な意見をいう人がいたが、それは偏見だ。たしかに役人へのワイロや、試験でのカンニングが摘発された話をニュースで聞くが、それは綱紀肅正に政府が取り組み表面化したものだと思う。確かに日本と比べると、まだ社会的ルールを守る意識が低いのは私も感じるが、毎年数万人が大学へ進学する国なので、ほとんどの学生は真面目に勉強しているはずだ。

9月下旬に私の学校で卒業試験があり、昼間部 103 人、夜間部 146 人の大学生が受験した。平均年齢は昼間部 23.9 才、夜間部 28.5 才と年齢差がある。昼間部はすべて 20 代だが、夜間部では 30 才以上が 44 人(30.1%)おり、30 代、40 代の方は若い時に教育機会に恵まれなかったのだと思う。カンボジアの社会では大卒の資格がより高い地位を得るために必要ということはあるが、4 年半(学位を貰うまで 5 年間)夜学に通い続けた努力には頭が下がる。卒業発表を聞いて、カンボジア人は努力家が多いという印象を受けた。



夜間部学生の卒業研究グループ発表の様子。右に座っているのは審査する先生方。

本会入会者リレー寄稿 私の歩んだ道

第一回 須貝 弘氏 ('02 チュニジア)

私のボランティア奮闘記

貝戸 弘です。

私は電電公社～NTTと約40年間勤めさせていただきました。仕事の内容は30年交換機の保守、点検、10年間は営業販売という内容でした。交換機の保守はステップバイステップの時代からデジタル交換機までまさに情報通信の歴史を体験し、また営業販売ではインターネットとスモールオフィスの先駆け販売をしました。

定年退職を目前に控え、これまでとは違った人生を送りたいと思いJICAに応募しました。甲府市広報に載っていたJICAのSV募集でした。チュニジアの首都チュニスでマルチメディア特別専門学校(日本の高等専門学校)の補助教官ということで赴任しました。学校はできたばかりで、私は仮の校舎で生徒たちと一緒に勉強しました。私のにとって幸運だったのは2人の先輩がいたということです。困難にぶつかったときも3人で考えました。そして自分の力のないことを、さらに自覚しました。当時チュニジアに一応ネットカフェはありましたが、わずかな数でした。プロバイダーもひとつで独占していました。メールアドレスをもらって運用するのに一週間近くかかりました。

チュニジアという国はほとんどすべてがフランスの影響を受けています【フランスから独

立した国ですので当たり前でしょうが】言語も仏語でしたから、私はほとんど理解できません。先輩の2人はアフリカの仏語圏内の国に数回派遣された人たちでした。最初は2人が仏語を理解でき、自分が理解できない。ストレスがたまり落ち込む日の連続でした。どうしても日常会話の仏語が理解できません。先輩たちに校長より要望があるときも3人で聞くのですが、わからないのは自分だけでした。先輩たちに私はいろいろ教えていただき、やっと校長の意図が理解する毎日でした。私は先輩2人と違った経験がある。今まで経験したNTTの仕事のひとつつ校長の意図するものに、結びつけゆっくりで進むより仕方がないと思うことにしました。

学校は仮の校舎です。パソコンは全部で75台ありますがLANを組んでいません。まずLANを組むことからはじめました。NTTの経験があるので簡単に組めると思っていたが、なかなか思ったようには進行しません。ケーブル、コネクタ、HUBなどで必ずエラーがでるのです。チュニスの情報機器が売っているところに何回も行き、いろいろな国の品物を買って実験しました。安くていいものをさがす。日本では考えられないハードの選択からはじめました。次から次に出てくる問題と格闘しながら過ごす日々でした。

私にとって学校の教官で講義をするなど絵に描いたもちのようでした。授業を参観しながら問題点を取りあげ、少しでもLANのネットワークを利用する。学生がネットワークに関心を持つことを目的にしました。この学校では当時映像のソフトに力を入れていました。要するにソフトの使い方を教えていたのです。特定のソフトだけをよく知っている先生が、学んでいる科目ごとに配置されていました。ですからネットワークなどあまり関心がなかったと思います。進学試験と中間試験がありますが生徒数約1000人に学年毎の問題を前日にパソコンに一斉に入れます。全部で75台ですから各個人にパスワードをあたえてパスワードで問題を開きます。回答は各自が持っているCDに保存し、それを先生に提出します。すべてがオフラインでした。

授業の現状把握ができると、改善の方向が決まりました。3人で協力してネットワーク構築にとりかかりました。WWW.FILE.DNS,を立ち上げ、学生個人に機能をあたえました。オンライン操作でCDも持ち歩かずサーバーで管理します。先生方も試験結果の管理などの役に立ち、大変楽になったとおもいます。当初はwindows 2000 saverでしたが、校長よりlinuxを使いたいと要望がありWWW,DNS,FILE すべてをLINUXにしました。LINUXは毎週のようにbagが出ます。その維持もたいへんでした。またLANケーブルがオーバートラフィックになりますのでそのことも解決しなければなりませんでした。

二年目の2月ごろになると落ち着いてきました。そこではじめて教室で生徒に講義をしようとおもい “なにを講義するか”一回1時間の講義を7回持つことにしました。日本の情報通信の現状から始まりISDN~INTERNET~VPN~暗号端末など資料を作り、校内WWWに載せて教室で生徒に講義しました。資料はすべてwwwからとりました。しかしながら最後までできなかったことを残念に思っています。すべて英語でした。

最後に私達3人は構築したシステムをCDに保存し、今この国が一番情報通信で必要なものは何か考えました。そして私たちが行き着いたところは、国中どこからでもイーラーニングができればこの国はもっともっと若い人たちの力が伸びるだろう。まずネットワークのインフラです。

それから銀行間のオンライン決済もできるようにしたい。具体的に2つのことを次に来るSVに引き継ごうと思っていました。銀行間の決済はたぶんGOーが出ないことも承知しています。いろいろ問題が多いからです。最近ではシステム一式で提供するでしょう。それもひとつの提案です。

情報通信は日進月歩です。当時（2004）の考え方はこんなものでした。私が2年間お世話になって一番感じたことは貧富の差が少ない国ほど先進国だということです。残念ながらチュニジアは該当していませんでした。帰国後、チュニジア大使館より定期的に食事会に招待させてもらっています。どうしたらこの国が豊かになるのか、そのことを提案したこともあります。でもまだ返事をもらっていません。リソースのないところは日本とよくにっています。

最後に地中海について感じたことを話させてもらいます。塩の香りがあまりありません。岸辺を歩いてもなかなか貝は見つけることができません。日本の海の豊かさを再確認しました。オリーブと太陽と砂漠と岩塩が何か大きな未来を予感させてくれる。今もその考えは変わっていません。

お知らせ

青年海外協力隊（JOCV） 壮行会のご案内

NTT 東日本の松永健司氏より、次の案内がありました。

「JOCV の次回壮行会を開催いたします。是非ご出席のほど宜しくお願い致します。

- ・平成 21 年 12 月 11 日（金） 19 時から
- ・JICA 広尾センター

今回は2名の壮行会で、派遣先はウズベキスタン及びケニアで、指導科目は共に「コンピュータ技術」です。皆様の参加を期待いたしております。会費は4,000円とのことです。

ご希望の方は、事務局加藤

(kato2415@jasmine.ocn.ne.jp)

まで連絡ください。

編集後記

・今回から、当会加藤事務局代表加藤隆さんの指示を受け、本会報の編集を担当することになった村上勝臣です。不慣れなところがありますがよろしく願います。関係みなさま方のご指導を得て、親しまれる会報になればと希望しています。

・今回はNTT東日本 ITイノベーション部 国際室長・内田孝則様の挨拶をいただきました。それによるとNTTはグローバルビジネスを中期戦略に設定しているようです。本会の小さな活動がそれをアクセラレートできればめっけものと願っています。

編集長：NTTOBSV 事務局代表 加藤隆

編集員：NTTOBSV 村上勝臣

発行：NTTOBSV 会 (kato2415@jasmine.ocn.ne.jp)